

出張報告書

令和4年10月20日

福岡市議会議長
伊藤 嘉人 様

福岡市議会アメリカ・オークランド市友好訪問団

団 長 伊 藤 嘉 人

団 員 南 原 茂

〃 大 原 弥寿男

〃 川 上 多 恵

〃 落 石 俊 則

〃 天 野 こ う

〃 藤 野 哲 司

事務局 曾根田 秀 明

〃 宮 原 淳

〃 西 野 桐 子

この度、下記のとおり出張したので、報告します。

記

1 出張期間

令和4年8月16日(火)～8月21日(日)

2 出張先

アメリカ・オークランド市及びサンフランシスコ市

3 用務

福岡市議会アメリカ・オークランド姉妹都市締結60周年友好訪問

4 用務の経路及び結果

「福岡市議会U S ・オークランド姉妹都市締結60周年友好訪問団出張報告書」のとおり

福岡市議会USオークランド姉妹都市締結 60周年友好訪問団出張報告書



福岡市議会

I 概要

1 目的

本市の姉妹都市（広州市、釜山広域市を除く）に、市議会議員で構成する訪問団を派遣し、議会及び行政機関との交流・視察を行い、本市と姉妹都市との交流促進を支援するなど、その成果を本市の施策に活かし、本市の発展に寄与することを目的とする。

2 期間

令和4年8月16日（火）～8月21日（日）6日間

3 訪問団員

団 長	伊 藤 嘉 人（議長）
団 員	南 原 茂（自由民主党福岡市議団）
団 員	大 原 弥寿男（自由民主党福岡市議団）
団 員	川 上 多 恵（公明党福岡市議団）
団 員	落 石 俊 則（福岡市民クラブ）
団 員	天 野 こ う（福岡令和会）
団 員	藤 野 哲 司（自民党新福岡）
事務局	曾根田 秀 明
事務局	宮 原 淳
事務局	西 野 桐 子

4 行程

日付	時間	訪問地名	内容
8 月 16 日 (火)	午後 夜	アメリカ・カリフォルニア州 オークランド市	福岡空港出発 (羽田空港乗換) サンフランシスコ国際空港着 オークランド到着
8 月 17 日 (水)	午前 午後 夜	オークランド市	・市民団体Oakland Fukuoka Sister City Associationとの懇談 ・ジャックロントンスクエア視察 ・オークランド市長及びオークランド市議会議長表敬 ・モザイク壁画完成記念式典（姉妹都市周年事業記念行事）出席 ・VIPレセプション出席
8 月 18 日 (木)	午前 午後	サンフランシスコ市	・PCR検査 ・サンフランシスコ市庁舎視察 ・ミッションベイプロジェクト都市開発視察
8 月 19 日 (金)	終日 夜	サンフランシスコ市	・フィッシャーマンズワーフウォーターフロント地区開発状況視察 ・ゴールデンゲートブリッジ歴史保存地区視察 ・カリフォルニア科学アカデミー視察 ・デ・ヤング美術館視察 サンフランシスコ国際空港着
8 月 20 日 (土)	未明	サンフランシスコ市	サンフランシスコ国際空港出発
8 月 21 日 (日)	午前		(羽田空港乗換) 福岡空港着

5 姉妹都市締結からこれまでの交流について

①締結・周年記念行事	
時 期	内 容
【受入】 1962年10月13日 1967年10月 1977年 4 月 1982年 4 月 2002年 5 月 2012年 5 月	・オークランド姉妹都市調印団受入、締結記念式典、祝賀パレード ・福岡にて姉妹都市調印 ・姉妹都市提携 5 周年記念オークランド市訪問団受入 ・姉妹都市提携15周年記念オークランド市訪問団受入 ・姉妹都市提携20周年記念オークランド市訪問団受入 ・姉妹都市提携40周年記念オークランド市訪問団受入 ・姉妹都市提携50周年記念オークランド市訪問団受入
【派遣】 1969年10月 1972年 4 月 1992年 4 月 2002年 9 月 2012年 8 月	・姉妹都市提携 7 周年記念福岡市訪問団派遣（鳥居設置） ・姉妹都市提携10周年記念福岡市訪問団派遣 ・姉妹都市提携30周年記念福岡市訪問団派遣 ・姉妹都市提携40周年記念福岡市訪問団派遣（鳥居再建） ・姉妹都市提携50周年記念福岡市訪問団派遣（灯籠設置）
②過去の主な交流事業	
時 期	内 容
【受入】 1988年 3 月 1989年 8 月 1995年 8 月 1999年 3 月 1999年 8 月 2012年 5 月、11月	・博多港・オークランド港貿易協力港調印団受入 ・アジア太平洋博覧会オークランド市出展及び訪問団受入 ・ユニバーシアード福岡大会「友好の火」事業で市長訪問団受入 ・フランク・オガワ市議会議員の胸像除幕式で副市長、港湾委員会委員長等を受入 ・博多港開港110周年記念式典で港湾委員会副委員長等を受入 ・オークランド福岡姉妹都市協会訪問団を受入

時 期	内 容
【派遣】 1968年 7 月 1982年10月 1988年 8 月 ～1989年 8 月 1992年 4 月 1998年10～11月	・カリフォルニア州博覧会に福岡市が姉妹都市出展 ・博多どんたく訪問団派遣 ・職員派遣 - 福岡市職員 入口文夫 ・博多どんたく訪問団派遣 ・フランク・オガワプラザ完成式、胸像除幕式参加 ※その他、動物交換・スポーツ・文化・青少年・女性・医療・観光・経済分野で交流多数
③定期的な交流事業	
時 期	内 容
1970年 8 月より 1981年 7 月より 1999年 4 月より 2004年 4 月より	・青少年訪問団の隔年派遣・受入(福岡国際交流協会事業) ・英語弁論大会オークランド賞受賞者オークランド派遣 ・高校生受入(福岡ロータリークラブ、福岡西ロータリークラブ) ・市民交流派遣・受入(福岡・U S オークランド友好協会事業)
④その他	
時 期	内 容
2002年～	・アジア太平洋こども会議受入

6 オークランド市議会議員

○ 市全体選出 Rebecca Kaplan (レベッカ カプラン) 氏



2008年11月に、Rebecca氏は、最年少の議員として初当選し、以降10年以上にわたって、市議会議員として、オークランド市の発展のために尽力している。

現在は、雇用の創出や住宅購入者への支援政策、治安の改善、交通機能の強化、政務の改革等に力を入れている。

○ 1 区選出 Dan Kalb (ダン カルブ) 氏



Dan氏は、2012年に初当選、現在3期目。

現在、Dan氏は、気候変動への対応、教育への投資、山火事や災害の抑制、政府改革、そして住宅問題の解決に尽力している。

○ 【議長】 2 区選出 Nikki Fortunato Bas (ニッキ フォーチューナト バス) 氏



Nikki氏は、議員として20年間活動し、現在はオークランド市議会の議長を務めている。

現在は、最低賃金の引き上げや、米軍基地等における雇用の創出に尽力している。

○ 3 区選出 Carroll Fife (カロール ファイフ) 氏



Carroll氏は、何十年も公共サービス関係の仕事に従事した後、同じ組織で仕事をする人々から支援を受け、市議会議員に立候補した。

現在、路上生活者等への住宅案内の支援や、人種間の不平等を是正するために累進課税制度を導入することに尽力している。

○ 【議長代行】 4 区選出 Sheng Thao (シェン タオ) 氏



Sheng氏は、カリフォルニア州議会及びオークランド市議会で初めてモン族(東南アジア)の女性議員で、2018年11月から市議会議員として活動している。

氏は、シングルマザーとして子どもを育てながら、そして仕事をしながら大学へ通学し、メリット大学を首席で卒業。その後カリフォルニア大学バークレー校へ編入し、法律を学んだ。

○ 5 区選出 Noel Gallo (ノエル ガロー) 氏



Noel氏は、公共事業委員会の委員長を務めており、経済開発委員会、公安、教育委員会に所属している。また、全国都市連盟においてはオークランドの市の代表や、カリフォルニア州内の都市協会代表、公共交通機関のBRT政策運営委員会の代表も務めている。

○ 6 区選出 Loren Taylor (ロレン テイラー) 氏



Loren氏は、様々なデータを用いて、市の抱える複雑な問題の解決に挑んでいる。

現在は、人種や性別による契約上の格差をなくすための法案を可決することに尽力している。

○ 7 区選出 Treva Reid (トゥリーバー リード) 氏



Treva氏は、2020年11月に市議会議員として初当選した。

幼少期のトラウマ、銃による暴力、配偶者による虐待、貧困、住居の不安定さなどの経験が、正義のために戦い、困難な問題に挑戦する氏の原動力となっている。

(出典 オークランド市HP)

7 オークランド市長プロフィール

第50代 オークランド市長 Libby Schaaf（リ ヴィー シャーフ）氏

オークランド市出身。

1995年にマークス・A・フォスター教育研究所のプログラム・ディレクターとなり、オークランド統一学区の新しいボランティア・プログラムの作成と運営に携わった。



2006年にオークランド港に広報部長として入社し、オークランド市の州政府及び 連邦政府の資金確保に貢献し、同港の戦略的コミュニケーション全般を指揮した。

2011年1月から2015年1月まで、第4区選出のオークランド市議会議員を務め、2012年姉妹都市締結50周年福岡市議会友好訪問団のオークランド市議会表敬時には議員として出席している。

2015年1月から現職。市長の任期は2期8年までのため、2022年10月の市長選挙には立候補できない。

住宅問題に取り組み、オークランドに手頃な価格の住宅生産を増やし、家賃を安定させ、立ち退きを減少させた。

2019年には、Gavin Newsomカリフォルニア州知事から、カリフォルニア州初の地域ホームレスアドバイザー評議会委員に任命されている。

低所得世帯の子供たちをより多く大学へ送り出すために「The Oakland Promise」を立ち上げ、奨学金と指導により、1,400人以上の学生を大学に送り出している。

オークランド初の交通局を創設し、これまで十分なサービスを受けられなかった地域の利便性向上を図るとともに、数十年にわたって後回しになっていたインフラ整備を行った。

（出典 オークランド市HP）

II USオークランド姉妹都市60周年記念交流事業

1 オークランド福岡姉妹都市協会との懇談会

(1) オークランド福岡姉妹都市協会の概要

オークランド福岡姉妹都市協会（Oakland Fukuoka Sister City Association, 以下「OFSCA」）は、1963年に設立された団体で、福岡市とオークランド市の姉妹都市交流の窓口になっている。

OFSCAは、オークランド・福岡の人的交流や、地域の文化イベントを通して相互の文化への認識、理解、そして長期的な友好関係を促進することや、地域社会における異文化理解と多様性を尊重するための活動や関係を構築することを使命としており、オークランド市における周年記念事業は、OFSCAが主体となって行っている。

なお、福岡市には「福岡・USオークランド友好協会（FOFA）」があり、OFSCAと協力し姉妹都市交流に取り組んでいる。

(2) OFSCA トミナガ会長との懇談

①福岡市議会訪問団団長・伊藤議長挨拶（要旨）

オークランド市と福岡市は、1962年10月に姉妹都市関係を結び、今年で60年の節目を迎えるが、これまで定期的な青少年訪問団の相互派遣や各種市民団体の交流事業などをとおして、両市の友好と絆が深まってきた。

本日式典でご披露される「モザイク壁画」は、OFSCAの関係者の皆様が、オークランド市と福岡市の石を交互に散りばめ、「思いやり」、「平和」、「コミュニティ」といった思いを込めて作成されたと伺っている。

福岡市議会としても、「モザイク壁画」が、オークランド市と福岡市の友好の証になると確信している。



②OFSCA ゲイリー・トミナガ会長挨拶（要旨）と活動状況説明

今日は、午後のモザイク壁画式典の準備があることから、OFSCAメンバーの出席が私一人となってしまう申し訳ない。

私は68歳で日系3世であり、15年程前から家族も一緒にOFSCAの活動に携わ

っている。また日本語学校（週末日本語学校）やオークランド仏教会（西本願寺）の理事もしている。

OFSCAの主な活動は、青少年訪問事業やAPCC（アジア太平洋こども会議イン福岡）交流事業であり、コロナ前はお月見等のイベントも行っていた。

会費（寄付）納入会員は、35～50人で、ほかにも一緒に活動している会員がいる。



③懇談（抜粋）

ト=トミナガ会長

福=福岡市議会訪問団

福 OFSCAの活動で大切にしていることは何か。

ト 青少年訪問事業である。派遣する学生に日本の生活習慣等の事前学習をさせてから送り出すと、多くのことを吸収してくる。福岡からの学生にもオークランドやアメリカのことを知ってもらう。私の子どもは既に成人したが、現在でも活動が続けているのは、送り出す学生、また受け入れる学生に大きな影響を与えることになると思うからであり、学生の中から将来の議員が生まれるかもしれない。

OFSCAに対してはオークランド市からの援助はなく、自分たちの持ち出しで活動している。

福 活動される中で、一番大変なことは何か。

ト コロナによる影響である。通常は春休みに高校生の交換交流をしているが、2年前からオンラインによる交流になった。それから活動メンバーが非常に多忙であるということである。

福 会長就任のきっかけは何か。

ト 前会長が遠方に転居されて会長が続けられなくなり、私を次期会長にと周囲のメンバーが推薦してくれたことである。

福 メンバーは福岡の関係者か。

ト 妻の母方が福岡出身であるが、私の祖父母は熊本と広島出身だ。メンバーには交換留学生の家族の方も多くいらっしゃる、必ずしも福岡出身というわけではない。

- 福 60周年にモザイク壁画にした理由は何か。
今回のモザイク壁画に、自分の住んでいる地域の室見川の石を使用してあり非常に嬉しいし、ご縁を大切にしたい。
- ト 40周年は鳥居、50周年は灯籠だった。象徴的なもので、将来の世代が楽しんでもらえるものにしたいからである。
- 福 40周年時の鳥居を再建した話を伺いたい。
1968年に福岡青年会議所が寄贈したとお聞きしたが、私も昨年まで福岡青年会議所の会員だった。また、今回の訪問団の中にもかつての会員が他にも2人いて、非常に嬉しい。
- ト 私が会員になる前の話であるが、仏教会・民間からの寄付、政府からの資金を集めたと聞いている。
「鳥居ゲート」と米国人は言うが、日系人にとっては神社のようなものであり、日本や福岡に敬意を表したくて再建した。私の父も庭師として参加した。
- 福 土地の所有者はだれか。
- ト メリット湖はオークランドの公有地だが、鳥居周辺の管理はOFSCAが行っている。
- 福 オークランドには多くの日系人が住んでいるのか。
- ト 昔は多くの日本人が住んでいたが、今では郊外へ転居してあまり多くない。ご存じのとおり第2次世界大戦中に、日本人は強制収容所に入れられた。今の中華街が昔の日本人町のあった場所である。
- 福 日系人としてのご苦労はあるか。
- ト 祖父母や父母の時代は差別があった。私の若い頃もあったが、今では随分よくなっている。
- 福 日本語学校の生徒はどのような人たちか。
- ト 小学生から大学生までいる。日系人が多いが、日本語を学びたいという人であれば誰でも教えている。
重要なポイントは日本語のネイティブが教えるということで、日本語学校に通った私の子ども2人は、私よりも日本語が上手だ。ただここ2年はコロナのためオンライン授業である。

④福岡市議会より記念品の贈呈



⑤ 記念撮影



(3) 団員の意見

- 少ない日系人のなかでスタッフを募り60周年の記念事業を立ち上げ、準備をしてこられた苦勞が伺えた。平素からオークランド市と福岡市との情報交換や交流を行うことで、お互いの市民が関心を持ち、多くの市民が参加できる交流事業になるような努力が必要ではないかと思った。
- トミナガ会長が日本、とりわけ福岡市との親交に熱い思いを持って尽力されていることに感動した。特に現地の子どもや青年に対し、日本文化の伝承や留学の推進に貢献してくださっていることに感謝の気持ちでいっぱいになった。
- 日系1・2世のアメリカでの苦勞話やこれまでの活動状況や課題も聞かせていただき有意義な時間だった。
- 民間団体であるOFSCAが、両市の交流にとって重要な役割を担っていることを確認できた。
- 活動についての苦勞等の本音が聞け、熱意を肌で感じることができ、対面での交流が重要であると感じた。

2 USオークランド市議会表敬・意見交換

(1) USオークランド市議会の概要

市議会は、オークランド市の管理機関である。8名の議員は、オークランド市民から直接選出される。

選出区は、7地区に分かれており、それぞれの地区から選ばれた議員7名と、市全体から選出された議員1名の合計8人で市議会は構成されている。

市議会の役目は、市の予算案を審議すること、条例案を可決すること、そして理事会や委員会の役員を任命することである。(出典 オークランド市HP)

(2) 議長表敬・意見交換

①USオークランド市議会・バス議長挨拶（要旨）

オークランド・福岡姉妹都市60周年を嬉しく思っている。

オークランド市は福岡市と同じく港の街であり、我々の仕事などについてお話ができればと思っている。オークランド市より福岡市の方が、人口も議会も規模が大きいので、比較しながらお話をお聞きしたい。



②オークランド市議会出席者挨拶

(写真右から)

- ニッキー・フォーチュナト＝バス議長（2区）
- カロール・ファイフ議員（3区）
- ダン・カルブ議員（1区）
- キンバリー・ジョーンズ氏（カプラン議員（市全体選出）スタッフ）



○トゥリーバー・リード議員
(7区)



(写真右から)

○クリスティン・ミヤシロ氏(カプ
ラン議員(市全体選出)スタッ
フ。祖父母が沖縄出身である
こと)

○トゥリーバー・リード議員スタ
ッフ



③福岡市議会訪問団団長・伊藤議長挨拶(要旨)

オークランド市と福岡市は、1962年10月に姉妹都市関係を結び、今年で60年という節目を迎えた。福岡市議会友好訪問団がオークランド市を訪問させていただくのは、2012年の姉妹都市50周年以来、2回目の訪問となっている。60年にもおよぶ交流は故フランク・オガワ氏※をはじめとする、多くの方々に支えられ、両市民の間に様々な交流が実施されてきた。福岡市議会としても、両市の交流が将来にわたって継続されることを強く願っている。

※ フランク・オガワ氏について
カリフォルニア生まれ。日系2
世。オークランド市議会における
最初の日系アメリカ人市議会議員
に選出。福岡・USオークランド姉
妹都市締結の功労者。1994年7月
13日、現役議員のまま77歳で死
去。オークランド市議会は、市役



所前の広場を「フランク・オガワ・プラザ」と命名。それぞれの都市に胸像が建立されている(1998年オークランド、1999年福岡市〈ぴあトピア緑地：博多区沖浜町〉)(写真はぴあトピア緑地)

<説明文>

フランク・オガワ氏

1917. 5. 17-1994. 7. 13

カリフォルニア出身の日系2世アメリカ人。

家業の造園業を営むかたわら、生涯にわたってアメリカと日本、特にオークランド市と福岡市の友好親善に尽くした功労者。



1962年10月13日に締結した両市の姉妹都市交流には、当初から大きな推進力を発揮し、生涯にわたって力の限りを傾注され、青年交流事業等に顕著な成果を遺わされた。1988年3月31日に博多港とオークランド港の間で結ばれた貿易協力港関係も、港湾委員であったオガワ氏の尽力の賜である。

こうした国際親善への貢献に鑑み、1969年と1989年には福岡市政功労者賞、1990年には日本政府より勲三等瑞宝章が授与された。

オガワ氏の功績を讃え、その偉業を次代に伝えていくために、オークランド市の有志の手により1998年胸像2体が作成され、一体はオークランド市庁舎前のプラザに設置され、もう一体が福岡市に寄贈された。

我々はこの趣旨に賛同し、オガワ氏にゆかりの深いこの地に氏の像を設置してその遺徳を讃え、末永く遺志を伝えていきたいと念願するものである。

④福岡市議会訪問団団員自己紹介

⑤意見交換(抜粋) オ=オークランド市議会 福=福岡市議会訪問団

福 議会制度について、議員の秘書・スタッフの制度について伺いたい。

オ 私たちは福岡市と比べると小さい市議会で、議員が8名、選挙区が7つである。議員には政策立案や近隣問題を扱う秘書が3名いるが、福岡はどうか。

福 議員によって、政策スタッフを持っている人と持たない人がいる。オークランド市の政策スタッフは公費か、それとも私費か。

オ 政策秘書は全員公費（市の予算）である。また市長には12名のスタッフがいる。

福 私たちの場合、政策スタッフを持たない議員は、自分で勉強していろいろな施策に反映させている。

オ 政策スタッフを何人かで共有しないのか。



福 事務スタッフはいるが、政策スタッフはいない。

オ 議会の市民参加に興味がある。オークランド市では市民参加に誇りがあり、市民は議会では1人につき2分30秒、直接マイクで話すことができる。メールや電話も可能である。

福 市民からのご意見は、議員が個人で受けたり、会派で受けたりする。私たちが市民を代表し、市民の意見を市政に反映させている。

オ 福岡市の登録有権者数は何人か。人口の何%か。

福 約129万人。18歳以上の居住者は選挙人名簿に自動的に登録される。

オ 選挙区はいくつあるか。

福 7区だが、区の人口によって選出議員数は違う。

オ 福岡市は条例関係を多く制定しているようだが。

福 市側から提出する条例もあるし、議員から提出する条例もあるが、市から提出される条例が多い。

福 ベーシックインカム※制度についてだが、財源が民間から、期間は1年半限定だそうだが、これからどうなっていくのか。

オ 財政が続く限りやりたいと思っている。また州政府の下にアラメダ郡があるが、郡がベーシックインカムを考えている。

（予定していた時間を過ぎてしまうほど意見交換が活発に行われた）

※ 2019年3月に発表された「オークランド・レジリエント・ファミリーズ・プログラム」は低所得世帯を対象に毎月500ドルを支給する。財源は全米の慈善団体など民間の寄付者によりまかなう。参加条件は、所得が地域の中央値の50%以下で、18歳未満の子どもが1人以上いること。人種による貧富の差を減らすことを目的として、有色人種であることを支給の資格にした初めての試み。

④ 記念品贈呈

⑤議場見学及び記念撮影



(3) 団員の意見

- 地方自治での議会や議員の在り方について時間があればもっと掘り下げた意見交換をしたかった。
- 人口40万人の市に議員はわずか8人。アメリカ合衆国の選挙制度がどのようになっているのかを理解しておかないと懇談が深まらないというのが率直な意見である。
- ベーシックインカムについて。アメリカならではの施策であると感じたのと同時に、日本におけるベーシックインカムの在り方を考えるきっかけになった。
- 各議員一人ひとりに公費で政策秘書がついていることが福岡市との違いだった。

(写真：オークランド市庁舎を背景に、フランク・オガワ氏胸像前にて)



3 USオークランド市長表敬・意見交換

(1) USオークランド市役所の概要

1998年以来、オークランド市は市長・市議会の行政形態をとっている。選挙で選ばれ任命された幹部の権限や任務、責任は、市政の法的枠組みを提供する市憲章に定められている。

本市において選挙で選ばれ任命される幹部には、市長や市議会議員、市政担当官、市弁護士、市監査官、市書記がいる。

市長は特別選挙で選ばれる。任期は4年で、1度だけ再選が可能。市長は行政部門を監督し、市議会の承認を得たうえで市政担当官を任命する。市長は市議会の議員ではないが、議事が紛糾した場合、同数の票を投じることができる。

市政担当官は、市議会で承認された後、市長に任命される。市の日常的な行政・財政運営に責任を持ち、市長と市議会の目標や政策指令が確実に実施されるよう、市の機関や部署に指示を与える。

市弁護士は選挙で選ばれ、4年の任期で市役所の法律顧問を務める。

市監査役は選挙で選ばれ、任期は4年。市の運営が効果的かつ効率的に行われるよう支援し、市の資源の不正利用、浪費、不始末の抑止役として機能する。

(出典 オークランド市HP)

(2) 市長表敬

①USオークランド・シャープ市長挨拶（要旨）

私はオークランドで生まれ育ち、議員活動を始めたころはフランク・オガワ氏もご存命だった。

私は人と人、街と街のつながりが大切だと思っている。市長になってからは高校生の交換留学プログラムの学生全員に会っている。私のスタッフの一人は、元交換留学生である。

交換留学生も3世代目（祖父母も元交換留学生）になり、我々の友情はヒューマニティに貢献している。

また、イノベーションやテクノロジーも世界に対する貢献であるし、文化も大事だと考えている。

これからもこのすばらしい伝統を続けていきたいと思う。



②福岡市議会訪問団団長・伊藤議長挨拶（要旨）

福岡市議会友好訪問団のオークランド市への訪問は、姉妹都市締結50周年にあたる2012年以来、今回で2回目となる。10年前の訪問の際には、シャープ市長は、市議会議員として参加されたと伺っており、今回は市長というお立場での市政について伺えたらと思う。

シャープ市長をはじめ、本日出席の皆様方と友好を深めることができることはこの上ない喜びであり、両市の末永い友好関係を築くことができると確信している。



③意見交換（抜粋） シ=シャープ市長 福=福岡市議会訪問団



福 市長は低所得者の施策を積極的に行っていらっしゃるが、きっかけは何か。

シ 私は人の才能を結集させねばならないと考えている。貧困と差別は、才能を抑圧する。女性の政治指導者も差別の対象になる。親が貧しいと子どもも教育を受けることができない。

日本のシステムは人を助け

ることができる、素晴らしい。私はアメリカを誇りに思っているが、家のない人のことについては問題だ。貧困からの脱出の鍵は教育だと思っている。

福 予算はどうやって確保しているのか。

シ 市の経済活動の活発化である。私が市長になってからオークランド市内にも銀行や、会社の本社が増えた。豊かな人にお金を借りることは恥ずかしいことではない。先日も大学に行くための教育資金5,000万ドルについて発表したけど、これはシリコンバレーで成功している人からの資金である。

福 議員になったきっかけは何か。

シ この街を愛しているからである。子どもの頃から両親に「ボランティアをきなさい。コミュニティの助けになりなさい」と言われていて、自然にこうなった。

福 市長になって、一番大変なことは何か。

- シ 第1にホームレス問題である。こんなに豊かなイノベーションの国で、あんなにたくさんの屋根のない人々がいる。食料・医療の支援はあるのに、家がない。第2には差別問題だ。政府には古い規則・制度が残っているが、皆の才能が発揮出来たら多くの問題が解決できると思っている。
- 福 ホームレス施策について、どのようなことに取り組んでいるのか。
- シ 政府の資金でより多くの低所得者用住宅を作ることである。多くの時間が必要だし、多くの問題を乗り越えなければならない。そして最低賃金を上げたい。働いているのに住む場所がないことが問題である。
- 福 貧しい子どもを大学に送り出す取り組み「オークランドプロミス」※1はすばらしいと思う。
- シ カリフォルニア州では、増税の際は住民投票にかけ、有権者の2/3以上の賛成がないと実施できない。現在、次の選挙に向けて、住宅問題に充てるために増税する政策を出しているところである。
オークランドで8年前に増税した際、幼稚園や道路整備に必要だと説明したら、皆賛成してくれた。福岡市は住民の賛成がなくても増税可能か。
- 福 議会で決定することが出来る。宿泊税を福岡市独自で制定したことがある。
税収で比率が大きいのは何か。
- シ 固定資産税が一番大きい。私の家の価値も、市の人口が増え会社が増えて不動産の資産価値があがったことから、10年で3倍に上昇した。
- シ カリフォルニアには女性が政界に進出することを支援するプログラムがある。
ロンドン・ブリード サンフランシスコ市長もこのプログラムを経験している。
- 福 どのようなプログラムか。
- シ 「エマージ カリフォルニア」※2という、立候補の際や選挙の演説等のトレーニングである。
- 福 オークランド市長の任期は2期8年までという規定で、シャープ市長は既に2期務めておられるため、次の選挙に出馬できないと伺った。市長をお辞めになったらどうされるのか。
- シ 周囲の人から、1日に10回くらい聞かれる。適当な時期が来たら発表したいと考えている。

※1 市長とオークランド統一学区が2016年に開始したイニシアチブで、2024年までにオークランドの高校卒業生の数を3倍にすることをめざしているもの。

※2 「Emerge California」とは、公選職に立候補することを計画している女性のための6か月間の集中トレーニングプログラム。emergeとは出現する、台頭するの意。

④記念品贈呈



シャーフ市長から両市がデザインされたオリジナルTシャツを贈られた

⑤記念撮影



(3) 団員の意見

- ホームレス等貧困者層も多く、その支援に力を注いでいるとのことだったが、具体的な支援の施策について、もっと聞く時間が欲しかった。
- ホームレスの生活改善を図っていることや、議会での議論や市民の理解を得るための取り組み等、時間があればもっと尋ねたかった。
- 女性政治家の養成プログラムがあり、市長、議長をはじめ女性が活躍している印象が強く残った。

4 モザイク壁画完成記念式典（OFSCA主催）

（1）概要

締結60周年を記念し、OFSCAがモザイク壁画を作成し、メリット湖のレイクサイド公園に設置。

モザイク壁画の材料となる石は、FOFA（福岡・USオーランド友好協会）が室見川で収集したものと、OFSCAがイーストベイ地区公園で収集したものを使用している。

モザイク壁画には、福岡市とオークランド市の石が交互に散らばっており、「思いやり」「平和」「コミュニティ」といった意味を表している。福岡の石は滑らかでグレー。オークランドの石は、黒っぽいサーペタント（カリフォルニア州の石）。



（2）式次第

①OFSCAトミナガ会長挨拶（要旨）

オークランド・福岡姉妹都市締結60周年を記念して、モザイク壁画完成記念式典に、福岡市からお越しの皆様へ感謝申し上げます。



②壁画制作ボランティア挨拶（要旨）

60周年プロジェクトは3年前から始動し、この壁画は、人と人との間に新たな絆を築き、既存の絆を深めるという地球市民の重要性和OFSCAの使命を具現化したものである。

壁画のウグイスと梅の木は福岡市を、ゴイサギとカシの木はオークランド市を象徴し、ゴイサギがドングリの枝を贈り物として運び、ウグイスと友好を深めている様子を描いている。また、川は港街である両都市における水の大切さを表し、朝焼けの空は新しい門出を祝福するという意味を込めた。



③福岡市議会訪問団団長・伊藤議長挨拶（要旨）



60年の永きにわたって両市の交流にご尽力いただいた多くの皆様に改めてお礼を申し上げます。「モザイク壁画」が両市の友好の証として、またオークランド市の名所となることを期待している。

④在サンフランシスコ日本国総領事館 岸守総領事代理挨拶（要旨）

日本とカリフォルニア州の間には100以上の姉妹都市があるが、オークランド市と福岡市は、姉妹都市交流期間が最も長く、また最も活動が活発な都市の1つである。

これは、これまでの関係者のたゆまぬ努力のおかげであり、両市のみならず日米の友好の礎となっている。



⑤高島福岡市長挨拶（要旨）

オークランド市は福岡市にとって最初の姉妹都市であり、今日まで民間の草の根交流が長年続いており、これまでご支援いただいた方々に御礼申し上げます。

10年前の50周年の際もこの地を訪れ、両市の友好を照らすモニュメントとして、灯籠が奉納されたことを鮮明に覚えている。この地を再訪でき、非常に感慨深い。

⑥シャーフ・オークランド市長挨拶

オークランド市・福岡市の姉妹都市締結60周年を非常に嬉しく思う。これからも両市の交流が続いていくことを願っている。

⑦除幕式



左から
伊藤議長
高島市長
トミナガOFSCA会長
シャーフ市長
岸守総領事代理

(3) 団員の意見

○壁画に携わったアーティストをはじめ両市民代表のあいさつに熱いものを感じた。

○姉妹都市締結60周年にふさわしいモニュメントだった。ぜひ福岡市民にも知らせたい。

○3年もの期間をかけて作成された思いのこもった

ものだと感じた。学生による交流の実態が感じられ、このような経験をした子どもの存在は大きく、両市をつなぐ象徴であると思った。福岡市の室見川の石がこのような形で使われ、次世代に繋がれていくことは素晴らしいと思った。



○壁画作成にあたって多くの方々が携わり尽力してくださったことに感銘を受け、両市の深い友好関係を感じることができた。

5 VIPレセプション

(1) 概要

オークランド市長主催のレセプション。

出席者は、オークランド市長、オークランド市議会議員、OFSCA、在サンフランシスコ日本国総領事館総領事代理、福岡市長、福岡市議会訪問団 他。

(2) 式次第

- ①オークランド市長挨拶
- ②福岡市長挨拶
- ③OFSCAより記念品の贈呈
- ④オークランド市より記念品の贈呈
- ⑤福岡市議会議長乾杯
- ⑥福岡市よりOFSCAへ記念品の贈呈
- ⑦オークランド市議会より記念品の贈呈
- ⑧懇談
- ⑨終了



(3) 団員の意見

○両市長のスピーチ等を始め、60周年の積み重ねや、両市の愛着を感じることができた。

○現地のボランティアの方々のご尽力に感謝したい。

○言語の問題もあってか知り合いのグループごとの集まりになったのを残念に思った。

Ⅲ 視察

1 USオークランド市視察

(1) オークランド市の概要

オークランド市（英語：City of Oakland）はアメリカ合衆国カリフォルニア州アラメダ郡にある、サンフランシスコ湾に面した港湾都市でアラメダ郡庁所在地。かつて日本から移民が渡った地であり、日本語で王府（おうふ）とも称した。公式的なものではないが、住民をはじめ多くの人々からオークタウン（Oaktown）の愛称で呼ばれる。

地理的には、サンフランシスコの東対岸の約13kmに位置し、北はバークレーと接している。

市の中心部には、メリット湖があり、63haの広さの公園となっている。湖の西側には、高層ビルなどのオフィス街やチャイナタウンなどが広がっている。

また、米国西海岸において主要な港湾都市であり、カイザーパーマネンテ、Clorox、Dreyer's、Plus World Markets等の大企業が本社を置く、サンフランシスコ・ベイエリアのイーストベイと呼ばれる地域の中核都市である。

人口ではアメリカ44番目、カリフォルニア州で8番目に大きな都市である。

2000年度の合衆国国勢調査では、オークランドはロングビートと並び、アメリカでもっとも人種的に多様な都市である。

大陸横断鉄道開通から栄えたが、1906年のサンフランシスコ大地震後に被災者が流入し、大幅に人口を増やした。（出典 ウィキペディア）

(2) ジャックロンドンスクエア

サンフランシスコへ行くフェリーターミナルがあり、マリーナも整備されている。また、多数の商業施設・映画館やベンチが設置されており市民の憩いの場になっている。

MLBオークランドアスレチックスの本拠地移転が以前から計画されていたが、地域が合意する方向とのことであった。

【団員の意見】

○オークランドの入口として港湾都市の象徴のような印象を受けた。

○博多港とオークランド港は現在航路がない。

どのような貿易が行われていたのかジャックロンドンを訪問して知りたくなった。



2 サンフランシスコ市視察



(1) サンフランシスコ市の概要

ロサンゼルスと共にカリフォルニア州の経済、工業の中心地として知られている。2022年9月にイギリスのシンクタンクが公表した調査によると、サンフランシスコは世界5位の金融都市である。

サンフランシスコ自体の人口は80万5235人（2010年国勢調査）だが、対岸のオークランドなどを含めた都市圏(MSA)の人口は472万9483人にも上り、全米第12位の規模。更に南岸のサンノゼを加えたサンフランシスコ・ベイエリア全体の人口は966万6055人で広域都市圏（合同統計地域：CSA）としては全米6番目の規模である（いずれも2010年国勢調査）。それゆえに大規模なダウンタウンが形成されており、近代的なビルが建ち並ぶ。シリコンバレーやカリフォルニア大学バークレー校にも近く、コンピュータ系の企業も多い。

アメリカのシンクタンクが2017年に発表した総合的な世界都市ランキングにおいて、世界13位の都市と評価された¹⁾。アメリカの都市ではニューヨーク、ロサンゼルス、シカゴに次ぐ4位である。（出典 ウィキペディア）

(2) サンフランシスコ市議会

サンフランシスコ市庁舎は、1913年に着工され1915年に完成。歴史を感じる建物であった。壁や床に使用されている大理石は、バーモント州やテネシー州などの米国産であるとのこと。1989年の地震により一部が倒壊したため免震工事を行った際は、日本の技術者が技術支援を行った。

この庁舎内では円形ホールの外にノースライト、サウスライト、2階（バルコニー）、4階（ギャラリー）の5か所のホールを一般の使用に貸し出しており、かなりの収益をあげているとのことである。

円形ホールは直径75mあり、階段や踊り場を使ったパーティー演出も可能なので、ハリウッド映画の撮影やウェディングでも利用されている。訪問時には結婚式が行われていた。

壁のところどころにサンフランシスコ市のマークである「SF」をデザイン化した彫刻が施されている。



議場については、カリフォルニア産のカシなどをふんだんに使用した重厚な造りであった。

傍聴用ベンチは1916年から使用されているが、以前はカーテンがなく、また喫煙ができたため、ひび割れやニコチン除去の維持管理に費用がかかるとのことである。

その一方で、テレビカメラや市民発言のための時間指示計などが配置されていた。



市議会議員の任期は4年で、2期8年まで。議長は議員の互選で選出され、任期は2年である。議員数は5年に1度の国政選挙ごとに決定される。現在の議員11人中3人が女性であるが、この女性の割合について、最近としては少ない方だとのこと。

サンフランシスコでも女性の政治参加を醸成する「メンタリングプログラム」があり、立候補や意見の提出の仕方などを教える。

このプログラムが発表された際は多くの女性の応募があったそうである。



写真はサンフランシスコ市役所保全諮問委員会議長のEllen Schumer氏(82歳)

市議会は毎週火曜日14時から開催され（8月及びクリスマス～新年の2週間は休会）、市民には議場での1人3分の発言権が認められている。通常3時間程度であるが、真夜中まで続くこともあり、苦情や批判が多いが、その中に貴重な意見もあり市政に反映することもあるとのこと。

【団員の意見】

- Ellenさんの解説者によって庁舎の構造や議会の歴史等について熱く、懇切丁寧に説明をして頂き理解が深まった。
- 常に市庁舎をオープンにしていることに驚いた。市庁舎は公共のもの市民のものであり、議員は市民の代表者であるという民主政治を象徴している。
- 市庁舎をウェディングのための写真撮影場所として無償提供しており、日本と違う文化を感じたが、素晴らしい建物の活用方法と思った。



(3) ミッションベイプロジェクト都市再開発



元は沼沢地であり、建築プロジェクトから出た廃材や、1906年のサンフランシスコ地震で生じた瓦礫を活用して埋立地となった。

1850年代には船の修理場や食肉工場が、その後は倉庫街、更には鉄道の操車場が置かれた場所となり、人通りもほとんどなく治安が良くなかった。

1980年代から数回にわたって開発計画案が持ち上がるが、運河の周辺に高層ビルが建設されると眺望が遮られる、倉庫・工場の取り壊しによりブルーカラーの雇用が失われる、アフォーダブルハウジング（手頃な価格の住宅）が含まれていない、インフラや環境に負荷がかかるなどとして市民団体から反発を受けた。



このため、サンフランシスコの伝統的な街区構成の継承、アフォーダブルハウジングの供給、バランスの取れた複合的土地利用と職住近接、ヒューマンスケールの維持、オープンスペースの確保など、市民の主張に沿った計画方針が取り入れられることとなった。

1998年、都市計画をサンフランシスコ市が行い、開発は民間が行うという手法を取り入れて開発した。

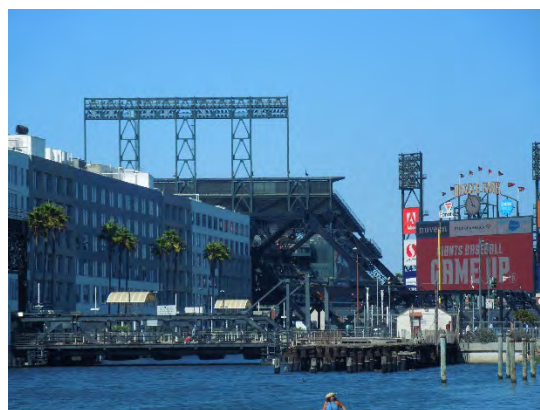
南側は、大学病院や医療関係の研究施設が集積されている。

北側にはコンドミニアムを中心とする住宅（6,400戸。その内30%がアフォーダブルハウジング。なお、手頃な価格といっても130万ドルという話である）、商店、ホテルが建築されている。

住宅が発売されると2週間程度で完売するなど、若い層を中心に多くの人に移り住んでいるとのことである。

なお、集客施設として湾岸沿いに、MLB サンフランシスコジャイアンツ本拠地であるオラクルパーク球場やNBAのウォリアーズの本拠地であるアリーナなどスポーツ関連施設がある。

ミッションベイプロジェクトは現時点で8割以上完成しているそうであり、人口も2010年から2020年の10年間で2倍の4,000人程度となっている。



【団員の意見】

- 湾岸沿いの倉庫街が、住宅街やバイオ産業の誘致によって、新しい街に生まれ変わっている。「九大箱崎キャンパス跡地のまちづくり」を思い浮かべた。
- サンフランシスコの新しいまちづくりの一環で無電柱化や交通網の発達など、新たな活力を感じた。
- バイオ医療技術の進出など、新産業や勢いのある技術が都市に集まること、街全体を活性化させると感じた。
- サンフランシスコのイメージに当てはまる場所であり、復興の象徴であると感じた。
- 短期間に人や産業が集まり、ベイエリアの再開発に魅力的な施策であると思った。博多湾のベイサイドにもこのような再開発を進めるべきだと感じた。
- 全景をどこからか見ることができればよかったのではと思った。



condominiumには庭がないが、緑地が広く整備されているので、犬を飼って散歩させている人たちや、芝生広場や緑地のあちこちに設置してあるベンチに座って歓談している人たちを何人も見かけた。

(4) ゴールデンゲートブリッジ歴史地区保存

ゴールデンゲートブリッジを含むプレシディオ公園 (58.6km²) は、国立保養地として整備され、国定歴史建造物地区に指定されている。

プレシディオとはイタリア語で「砦」の意味で、1776年にスペイン軍が軍用基地を築き、メキシコ軍管轄期間を経て、1846年から1994年までアメリカ軍が軍用地として使用していた。

現在では、旧アメリカ軍陸軍基地の個人住宅や軍事施設790棟を、実物例として保存している一方で、建物を改装してレストランや商店に利用したり、自然や地形を生かしたハイキングやマウンテンバイクのコース整備を行ったりしている。さらに海辺には水遊びやウインドサーフィン、カイトボードを楽しむ多くの人々で賑わっている地区である。

なお、海岸沿いにはサイクリングロードが整備され、フィッシャーマンズワーフで借りた自転車でゴールデンゲートブリッジを渡るという、観光客に人気のコースとなっている。視察時も、多くの家族連れやカップルがサイクリングを楽しんでいるのを見かけた。

ゴールデンゲート海峡は約2kmあり、対岸の通行は長時間かけてフェリーで行くしか交通手段がなく、1930年にサンフランシスコと周辺にある6つの郡の住民投票により、橋の建設が決められた。

この橋の設計者ジョゼフ・バーマン・シュトラウスは、詩人かつ哲学者にして、世界中に400以上の大鉄橋を造ったという功績を持つ人物であった。彼の設計した案は採用されなかったが、その後有名な設計者たちが集まり、現在のアールデコ調のデザインと共にインターナショナルオレンジという色の吊り橋に決まった

大恐慌の真ただ中、銀行家アマデオ・ピーター・ジャーニーニ（バンク・オブ・アメリカの創設者）が自社で公債を引き受けることを決断し、ようやく橋の建設に着手することができた。





ゴールデンゲートブリッジは、1933年から建設が開始され4年間費やされた。建設当時の様子がパネル展示されているが、その見せ方が工夫されており、パネルの見る位置によって、その建設年が変わっていくというアートトリックで見学者に分かりやすくなっている。



(写真)

橋の設計者シュトラウスと銀行家ジャニーニを讃える碑の前で、建設に至る歴史について説明を受ける。

碑には「先見ある男たち」と刻まれている。

【団員の意見】

○日本でいう第3セクターのような団体に運用しているとのことだった。車はもちろん、自転車や歩行者も通行できることは素晴らしいと思った。

○観光資源としての歴史地区保存について参考になった。

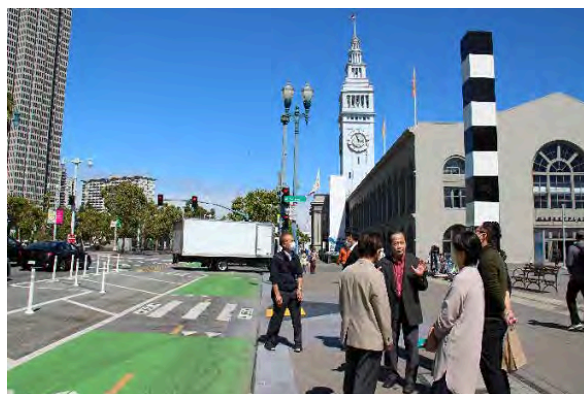
(5) フィッシャーマンズワーフウォーターフロント開発状況

19世紀半ば（ゴールドラッシュの頃）に、イタリア（シチリア）人移民が漁港を開いた。

船員達への労働の報酬が収穫物（魚、カニ、エビ）の現物支給であったため、新鮮な魚介類を売る店やレストランが出来、賑わうようになった。

写真後方の建物は1898年に完成したフェリービルディングである。

ゴールデンゲートブリッジ(1937年)及びベイブリッジ（1936年）が完成するまでは、アメリカ最大の交通ターミナルであったが、橋の完成以降、次第に利用者が減少し、また栈橋（ピア）もコンテナ港の時代がくると役目を終え、小さな貿易会社や駐車場が置かれるようになった。



1960年代、サンフランシスコ湾を眼下に見下ろせる場所でお茶会をしていた女性たちが、湾の大きな埋立工事に気付いてストップさせる運動を行い、環境保全と開発の調和がとれた港湾計画が実践されることとなる。

1989年の地震で沿岸に整備されていた高速道路が使用できなくなったことにより取り壊し、再開発が進められた。高速道路がなくなったことにより海辺に開かれた空間ができて治安も良くなり、広範囲にわたって人々が集まり賑わいのあるエリアになった。

フェリービルディングは元のデザインを保ちながら修復され、2003年にフェリービルディングマーケットプレイス(Ferry Building Marketplace)をオープン。建物は歴史的な価値から、国家歴史登録財（National Register of Historic Places）にも指定されている。

週3回、青果市場が開かれ、地元カリフォルニアの農産物、酪農製品、海産物が並ぶ。観光客のほか、対岸からフェリー通勤する地産地消の意識の高い富裕層の利用が多い。フェリービルディング内への出店は、サンフランシスコ市内に本店を有する企業に限られており、地場育成の観点が感じられる。

現在フェリービル西側は駐車場、倉庫、貸事務所に転用されているが、ピア15にはエクスプロラトリウム (Exploratorium) という物理・科学・生物の体験型科学博物館があり、非常に人気のある施設だそうである。またフェリービル東側はテクノロジーの会社が多く入っている。

観光客に人気のピア39以外は、自然発生的な開発といえる。

【団員の意見】

- 地震で高速道路が崩壊したことで再開発が進んだともいわれている。博多湾沿いの高速道路も今となっては再開発の妨げになっているのかと思った。
- 中央ふ頭や博多ふ頭周辺のウォーターフロント地区の再整備事業と対比しながら視察した。"行って・食べて・見て楽しい、魅力あるものにするためにはもう一工夫が必要だと感じた。
- 豊かな自然に裏打ちされ、自然発生的に観光地化していったという話は印象的だった。人工的に作られたミッションベイプロジェクトとは対照的だった。



(写真) マーケットプレイス
管理者が出店を希望する地元
の人を吟味して、プロモートす
るシステムだという。



(6) カルフォルニア科学アカデミー（環境子ども関連施設）

1853年開館。サンフランシスコのゴールデンゲートパーク内に立地している。1989年の地震のため建替、2008年に再オープンした世界最大の自然史博物館である。

自然博物館、水族館、プラネタリウム、亜熱帯温室や研究所がひとつの建物に集められており、持続可能性だけでなく、損傷した生態系と気候、自然界を再生することをミッションとしている。自然換気、雨水リサイクル、太陽光発電、屋上緑化など、現在世界で最も環境に配慮して建設された博物館といわれる。



【団員の意見】

○様々な生き物を直に見たり、体感することができ素晴らしい博物館だった。福岡にも生き物を対象にした博物館が必要ではないかと思った。

○森や大木に自然に触れる空間が整備されていることが参考になった。「油山市民の森と油山リニューアル」にもこのような空間が創出されることを期待したい。

○体験型施設も充実しており、子どものときに知識だけではなく、見て、触って、聞いて、感じるなど五感を通じて科学に親しむことの重要性を感じた。

○水族館や動物のはく製などの見所も多く、福岡市も参考になるのではないかな。





(写真)

博物館 1 階奥にいる、カリフォルニア科学アカデミーのマスコット・白いワニ。



(写真)

デ・ヤング美術館展望台から見たカリフォルニア科学アカデミー。屋根には厚さ15センチの土を入れ、その上にサンフランシスコ周辺に生息する170種類もの植物を植えて、エアコンの利用抑制を図っている。また周囲の背景になじむよう、山型となっているとのこと。

(7) デ・ヤング美術館

ゴールデン・ゲート・パーク内に位置する美術館。アメリカ美術、ネイティブ・アメリカンの美術品だけでなく、アフリカやオセアニアの美術品など幅広い所蔵品を有している。1989年ロマ・プリータ地震により建物に被害が生じ、市民からの寄付により、新しい建物を建築することになった。スイスの建築家ヘルツォーク&ド・ムーロンの案が採用されることになり2005年にリニューアルオープンした。氏はエントランスにいくつか割れ目を意図的につけたとのこと、その割れ目は地震で台地が割れていることを意味しているとのことだった。



【団員の意見】

○市民からの寄付が集まりやすいと聞き、日本との違いを感じた。

IV その他

【団員の意見】

- 歩車道接続部の段差がゼロになっているなど、バリアフリーが進んでいる街であるという印象を受けた。
- 国際情勢が混とんとしているからこそ、このような平和的な都市間交流の重要性は高いと感じた。
- 中国・広州市や韓国・釜山広域市の訪問のように、テーマを設定した交流の場があればもっと有意義な視察になったと思う。

(1) 商業施設

オーガニック商品に特化したスーパーマーケットやプライベートブランドを展開する企業など、ターゲットを絞った事業展開を行っている企業が数多く見られた。

(2) 新型コロナ対策について

市役所、ホテルについては、スタッフ全員マスク着用、商業施設など市民が利用する場所ではスタッフの2～3割のマスク着用、観光客が集まる施設については、スタッフはマスク着用であったが、観光客のほとんどはマスク着用していなかった。新型コロナについての報道は少なかった。

(3) 市役所のセキュリティについて

オークランド市庁舎、サンフランシスコ市庁舎とも、入口に金属探知のゲートが設置されていた。特にサンフランシスコ市庁舎では、ベルトを外してからゲートを通らなければならないなど徹底されていた。

(4) 電動キックボードについて

電動キックボードのシェアリングが行われており、ポピュラーな乗り物である感じた。市内のいたるところに専用駐輪場があった。車道を走行するようになっているとのことであるが、歩行者を縫うように走っている場面に遭遇した。



(5) 渡航事情

出発前に全日空福岡支店長から現状を伺うことができた。全日空国際便の乗客数は、コロナ前と比べ全体では4割程度であるが、北米線は7割回復している。ただし、乗客の多くは外国人で、日本人の乗客数は少ない。

【以下、参考資料】

オークランド・福岡姉妹都市締結60周年を記念して作成されたモザイク壁画の原画は、レイチェル・ロディ氏とガイ・フエルテ氏によって描かれた。

「思いやり」、「平和」、「コミュニティ」のメッセージが込められている。



**COMPASSION, PEACE,
AND COMMUNITY**

Oakland Fukuoka Sister City Association in honor of the 60 years of friendship
between Oakland and Fukuoka. Art by Rachel Rodi and Guy Fuerte.



OAKLAND FUKUOKA SISTER CITY ASSOCIATION
60TH ANNIVERSARY CELEBRATION



Mural Unveiling

WEDNESDAY, AUGUST 17, 2022
GARDENS AT LAKE MERRITT • OAKLAND, CALIFORNIA



Compassion, Peace & Community

OAKLAND FUKUOKA SISTER CITY ASSOCIATION OFFICERS & DIRECTORS, 2021-2023

President – **Gary Tominaga***
First Vice President – **Ed Bantilan**
Second Vice President – **Valerie Lee***
Treasurer – **Liane Higashiuchi Scott***
Recording Secretary – **Jason Lambert***

Aiko Dahan
Andrew Esterline*
Mark Frey*
Jaclyn Funasaki*
JJ Kotler*
Jason Lambert*

Valerie Lee*
Julie Miller*
Jennifer Murawski*
Brittany Nakamura*
Linda Nakamura*
Michael Rose

Joseph Samaniego
Paul Shimotake*
Susan Svensson*
Becky Taylor
Gary Tominaga*
Dan Westerlin

60th Anniversary Planning Committee*
Co-Chairs: **Jaclyn Funasaki**, **Mark Frey**, **JJ Kotler**

FUKUOKA CITY DELEGATIONS FUKUOKA MAYORAL DELEGATION

Sōichirō Takashima - Mayor
Kazuhiro Kubota - Executive Director International Affairs Dept
Seiichi Koga - Director International Relations Section
Akitoshi Nakato - Chief International Relations Section
Chizu Sawabe - Mayor's Interpreter
Akira Takaki - Chief International Relations Section
Jack James - International Relations Section Interpreter Support

FUKUOKA CITY COUNCIL

Yoshito Ito - Chairperson, Fukuoka City Council
Shigeru Nambara - Liberal Democratic Party Councilor
Yasuo Ōhara - Liberal Democratic Party Councilor
Tae Kawakami - Komeito Party Councilor
Toshinori Ochiishi - Fukuoka Citizen's Club Councilor
Kō Amano - Fukuoka Reiwakai Councilor
Tetsushi Fujino - Liberal Democratic Party Shin Fukuoka Councilor
Hideaki Soneda - Secretary General Fukuoka City Council Secretariat
Atsushi Miyahara - Fukuoka City Council - Director General Affairs & Secretary Sections
Tōko Nishino - Fukuoka City Council - Secretary General Affairs & Secretary Section

**OAKLAND FUKUOKA SISTER CITY ASSOCIATION
60TH ANNIVERSARY CELEBRATION**

Mural Unveiling Ceremony

6:00 - 7:00 p.m. at Lakeside Park Garden Center

WELCOME

Gary Tominaga, OFSCA President

Jaclyn Funasaki, OFSCA Director & Master of Ceremonies

SPEAKERS

Valerie Lee, OFSCA Director

JJ Kotler, OFSCA Director & Mural Project Lead

Prathana Pandey, OFSCA Member & Student Leader of Mural Project

Brittany Nakamura, OFSCA Director on behalf of Fukuoka-Oakland Friendship Association

Peter Bowyer, OFSCA Garden Liaison

Rachel Rodi & Guy Fuerte, Mosaic Mural Artists

Jay van Arsdale & Jason Forster, Frame Craftsmen

Yoshito Ito, Chairperson, Fukuoka City Council

Hajime "Jimmy" Kishimori, Acting Consul General of Japan in San Francisco

Sōichirō Takashima, Mayor of Fukuoka City, Japan

Libby Schaaf, Mayor of Oakland, California

*Please proceed to the mural location in the
Gardens at Lake Merritt for the ribbon cutting & unveiling ceremony.*

RIBBON CUTTING & MURAL UNVEILING

Reverend Harry Gyoukyou Bridge, Buddhist Church of Oakland

The Story of the Mosaic Design

At sun rise, the black-crowned night heron carries a gift of an oak tree branch with acorn from Oakland who is accompanied in friendship by a Japanese bush warbler who have journeyed together. They are both serenaded by the bush warbler who guides them and brings them together in community and with compassion perched on a plum blossom tree.

A Symbol of Community & Friendship

This project began three years ago led by JJ Kotler (OFSCA) with the goals of not only celebrating the 60-year friendship between our cities, but to be a community inclusive project building new and deepening existing relationships of people and organizations with OFSCA in Oakland and the Fukuoka Oakland Friendship Association (FOFA) in Japan.

Community participation and youth leadership was central to programming from concept and design to implementation. Design team members from the Oakland Bay Area and Japan joined in creative efforts exploring the personal and cultural significance of the message "**Compassion, Peace, and Community**" which translated into the artist's design by Rachel Rodi and Guy Fuerte. Prathana Pandey joined the team as a youth leader helping with outreach, concept, and design decisions, receiving additional mosaic training to become the mosaic assistant to Rachel Rodi for this project.



To deepen the symbolism in the mosaic mural and celebrate our connectedness to each other and nature, pebbles from Oakland, CA and Fukuoka, Japan were incorporated. Oakland residents (children ages 8-12, family members and adults) met in April 2022 to collect pebbles from Roberts Regional Park hosted by the East Bay Regional Park District. Fukuoka residents similarly participated in a pebble collection event along the Muromi River hosted by FOFA in January 2022 and sent the pebbles to Oakland to be incorporated. Mural classes, training, and community mural making days were sponsored by OFSCA and led by expert artists Rachel Rodi and Guy Fuerte.



Readying the Gardens: Beautiful landscaping and improvements at the Gardens were led by Peter Bowyer. Matt Jessee and team at MB Jessee Painting generously painted the torii gate, organized by Valerie Lee (OFSCA).

The frame, expertly built by local craftsmen Jay van Arsdale and Jason Forster, uses traditional Japanese woodworking techniques of planing and joinery connections. It is beautifully shaped to complement the mural and respect the natural beauty of cedar.



With Gratitude to Our 60th Anniversary Mural Donors

GOLD DONORS



Lake Merritt
Breakfast Club
Charitable
Foundation

SILVER DONORS

Berkeley Japan American Citizens League
GNO Pals: Liane, Julie, Georgia, Nancy,
Janet, Audrey, Cindy
The Rotary Club of Oakland

Paul Shimotake
In Memory of Kenneth C. Tam
Wa Sung Community Service Club

BRONZE DONORS

Edwin & Molly Bantilan
Berkeley-Sakai Sister City Association
Conradi Family
Drew Esterline
Joseph P & Martha Ely Goralka
Japan Exchange & Teaching Program Alumni
& Friends
Kitazawa Seed Co
JJ, Everett & Ren Kotler
Lee-Oyama Family
The Mayer-Higashi Family – Est. 1974
McCullough's - Brad Jen Colleen Claire
Leroy & Barbara Morishita
Eric Murphy

Brittany Nakamura
Jill & Kim Nakamura
Linda & Greg Nakamura
The Joseph M Samaniego & Salud Dacumos
Family
Liane & Eric Scott
Megan & Zachary Scott
Sequoyah Country Club
The Family of Jeffrey & Pamela Suda
Gary T. & Anne K. Tominaga
Union Bank
Visit Oakland
Larry & Peggy Woon

FRIENDSHIP DONORS

Laurie Callaway, Terisa Chaw & James A. Hendriksen, Kelly Chou, Mark Frey, Matthew & Nancy Fujikawa, Funasaki/Gopalan Family, Taichi Goto, Roy Ikeda, Bruce Jaffe, Jeanie Lee, Miriam & John Mangini, Leslie & Ken Morishita, Jenn Murawski, Sydney & Chip Nakamura, Bahia Simons-Lane, Spritzer-Satomi Family, Rex & Janet Takahashi, Deborah Thomas, Lauren Tran in Honor of JJ Kotler, Dan Westerlin, and Joanne & Eugene Wong

Special Thanks to Our Partners

City of Oakland:

Office of the Mayor

Public Art Advisory Committee

Côte West Wines

East Bay Regional Park District

The Friends of the Gardens at Lake Merritt

Fukuoka-Oakland Friendship Association (FOFA)

J. Miller Flowers and Gifts

Musashi Restaurant, Berkeley

Oakland Public Works:

Oakland Parks Recreation and Youth Development (OPYRD)

Park & Tree Services Division

Semifreddi's - Michael Rose

Visit Oakland

Timelapse Videography: **Jeremy Wong***

Torii Gate Painting: **MB Jessee Painting**

Mosaic Design & Facilitation: **Rachel Rodi & Guy Fuerte***

Japanese Woodworking Frame Craftsmen: **Jay van Arsdale & Jason Forster**

Project & Program Lead: **JJ Kotler***

Budget & Fundraising Lead: **Liane Scott**

Garden Liaison and Approvals Lead: **Peter Bowyer***

Youth Leader: **Prathana Pandey***

*Mural Design, Pebbles & Fabrication Volunteers**: Jessy Aguilar, Rachel Aquilina, Julia Berger, Zane Berger-Azevedo, Jimmy Chan, Mark Frey, Taichi Goto (FOFA), Liz Gregor, Violet Gregor-Alan, Samantha Hartington, Yukiko Honda (FOFA), Honomi Ijima (FOFA), Momo Kawashima (FOFA), Mona Koh (EBRPD), Everett Kotler, Ren Kotler, Barbara Luck, Aya Lux, Brittany Nakamura, Linda Nakamura, Kylie Quinn, Gabriella Rojas, Tamiko Shibata (FOFA), Susan Svensson, Kuraha Takaishi, Paula Urtecho (EBRPD), Takanori Yoshiura (FOFA), Saki Yoneda (FOFA), Siram



Est. 1962

Oakland Fukuoka Sister City Association (OFSCA)

www.oakland-fukuoka.org • ofsca1962@gmail.com

In honor of 60 years of friendship between the cities of
Oakland, California & Fukuoka, Japan

The Oakland Fukuoka Sister City Association helps to foster and promote cultural awareness, understanding, and friendship between the people and cities of Oakland and Fukuoka. We believe that this collaboration will strengthen us as individuals, strengthen our cities, our regional communities and our Sister City organization, which will ultimately enhance international understanding and harmony between cities and nations.

We extend our deepest gratitude to the many community members who have contributed to the 60th Anniversary. Thank you as well to all of the community members who have joined OFSCA as host families, student delegates, and supporters of our community & youth exchange programs over the decades.

*Mosaic Art Design: Rachel Rodi & Guy Fuerte
Frame Craftsmen: Jay van Arsdale & Jason Forster
OFSCA 60th Anniversary Logo Design: Zachary Scott
Frame photography: Jean Patrick Li*



カリフォルニア科学アカデミーで配付されていたノート（10cm×15cm）。

鉛筆と一緒に置いてあり、中は6mm方眼。

気になったものを見つけたら、すぐにメモできるようになっている。

Junior Scientist Adventure
is generously supported by

ORACLE®



CALIFORNIA
ACADEMY OF
SCIENCES



FIELD NOTES

Keep the adventure going! For themed science videos, crafts, activities, and experiments, visit calacademy.org/science-at-home.